

Q5 キャリア・カウンセリングの基本的な進め方は？



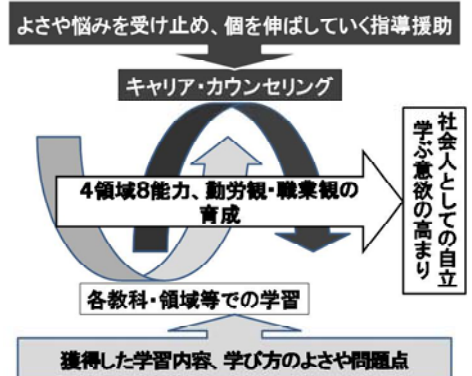
A:各教科・領域で獲得した「学習内容」や「学び方」のよさに気付かせたり、問題点を受け止めたりしながら、学ぶ意欲が高まるように指導援助を行っていきます。

(1) キャリア・カウンセリングの考え方

■ キャリア・カウンセリングと聞くと、卒業後の進路先を考える従来の進路相談のことに思われていますが、それだけではありません。キャリア・カウンセリングのねらいは、次のようになります。

- ①日頃の教師と子どもの人間関係を生かして、
(キャリア・カウンセリングの基盤)
- ②子どもが「もっと自分のよさを伸ばそう」、「自分の悩みはこうすれば解決できるんだ」など、目標を明確にもって意欲的に行動していきことができるように、
(キャリア・カウンセリングの目的)
- ③子ども自身が自己理解を深め、今後できそうな行動(学習活動)について把握し、その内容を決定していけるように指導や援助を行うこと。
(キャリア・カウンセリングの内容)

キャリア・カウンセリングを学びをつくり出すキャリア教育の視点から考えたものが右図です。各教科・領域の学習の際、自分が獲得した学習内容や学び方のよさに気付かせたり、獲得する上での問題点などを受け止めたりして、その子どもの学習状況に応じた指導援助を行っていきます。このように各教科・領域での学習とキャリア・カウンセリングを組み合わせることで、発達段階に応じた4領域8能力の育成や勤労観・職業観の高まり、学ぶ意欲の高まりが期待できます。



(2) キャリア・カウンセリングの場面



■ それでは、キャリア・カウンセリングでいう指導や援助は、こういった場面で言えばよいのでしょうか。下の例のように、子どもが学習活動を行うに当たって直面している、自分自身に関することや他者とのかわりに関するよさや悩みを素早くキャッチし、カウンセリングを行っていくことが大切です。

キャリア・カウンセリングが有効に働く場面の例

自分自身に関する悩み	他者とのかわりに関する悩み
<ul style="list-style-type: none"> ○自分がやるべきことが分かっていない ○学習内容を理解できていない ○学び方が身に付いていない ○友達より学習が遅れていると感じている ○自分の考えに自信をもてていない ○小学校との学習方法の違いについていけない ○学習意欲がない ○興味・関心がはっきりしない ○調べ方が分からず、欲しい情報が手に入らない ○自分の思うように学習を進められない 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ活動が苦手でやりたくない ○自分の役割が分かっていない ○他の人より大変な役割がある ○友達と協力してうまく活動できない ○自分の興味・関心を知られたくない ○みっともない姿を見られたくない ○人前でしっかり発表できない ○自分がみんなから孤立してしまうかもしれない

(3) キャリア・カウンセリングの進め方

■ キャリア・カウンセリングは、一般的に次の手順で進めていきます。

① 事前に基礎的な子どもの情報の収集

- 子どもの「学習内容」や「学び方」についての子どもの獲得状況や学習を阻害している要因がないか情報を集める。

② 子どものよさや問題の把握

- 子どものよさを友達の発言や学習ノートなどの資料をもとに確認する。
- 子どもの悩んでいる内容を確認する。その際、思い違いや思いこみなどがあれば、適切なものに修正する。

③ よさや問題点を手がかりに行動を促す指導援助計画

- 行動するのは自分自身であることを確認し、教師がどの部分で手助けできるか話し合ったり、子ども自身が解決の方策に気付いていない場合は教師から提案したりして、課題解決の方策が明らかになるように指導援助を行う。
- 方策を行動に移すための具体的な計画を作成する援助を行う。

④ 評価

- 方策とカウンセリング全体を整理し、子どもに評価（話をしてどのように感じたか）させ相談を終了する。
※子どもに満足感や達成感を感じさせることが重要です。
- 相談の記録を整理し、成果と課題を確認する。

(4) 進める際の留意点

■ キャリア・カウンセリングを進める際の留意点は次の3点です。



- ◇日頃から子どもとの人間関係を築いておく → 本音で話せる関係づくり
- ◇「聴く」「受け止める」を効果的に活用する → 自己表現の促進
- ◇語らせることで、自分で「獲得してきた学習内容や学び方のよさ」や「悩みを解決していく方法」に気付かせる → 気付きによる行動の促進

(5) キャリア・カウンセリングの事例

■ これは、中学校第1学年総合的な学習の時間での職場見学後の授業で、追究課題である「役割に対する考え」を明らかにするために相談活動を位置付け、キャリア・カウンセリングを行った事例です。

☆相談活動



☆付加・修正された考えに対するコメント



①② 子どもの基礎的な情報の収集、よさや問題の把握（事前）

- ・ 職場見学で見出した「役割に対する生徒の考え」と「教師への相談内容」を把握し、その相談に対する答えを学年の教師で話し合っておく。

③ 「役割に対する考えを明らかにする」相談活動（授業中）

- 職場見学を通して、新たに気付いた「役割」に対する考えを聴く。
- 次の2点に留意しながら、生徒の相談に答え、考えの付加・修正を行わせる。
 - ◇役割に対する生徒の考えで、さらに違う立場で置き換えることはできないか
 - ◇職場見学で使ったカードを振り返らせ、「役割に対する考え」を深め得るものの、生徒自身気付いていないものはないか
- 生徒に「役割に対する考え」の付加・修正を行わせる。

④ 評価（授業終末、事後）

- この活動によって「授業前の役割に対する考え」から「何が」「どのように」付加・修正されたのか、また、話をしてどのように感じたかを振り返らせる。
- 学年の教師で成果や課題、今後の指導の仕方を確認する。